



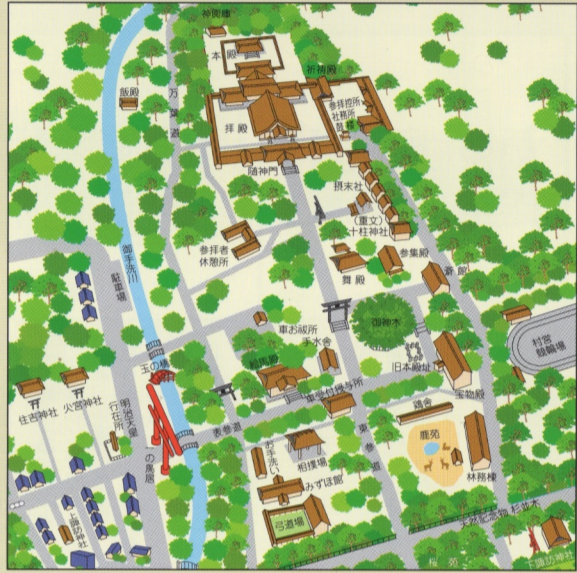
国指定重要文化財

十柱神社

元禄七年（一六九四）、長岡藩三代藩主牧野忠辰の発願により建立。桃山時代の手法を伝えるものとして大正六年に国の特別保護建造物に、昭和二十五年に国の重要無形文化財に指定された。
建坪八坪半、向拝付入母屋造。屋根は茅葺で簡明な形式ながら、募股等の絵彫彫刻に桃山時代の特徴を残す。
御祭神は大穴牟遲命他九柱。

宝物殿

昭和四十三年開館。当神社伝世の宝物・文書類を収蔵し、参拝者に公開している。
一階は昭和四十七年五月の昭和天皇・香淳皇后両陛下御親拝を記念して、新潟県出身の現代美術著名作家等の名品五十余点を、二階は志田大太刀を始めとする当神社の宝物類、並びに歴代天皇御肖像画を展示している。



室町末期の境内図

彌彦神社 宝物殿

新潟県西蒲原郡弥彦村弥彦2887番地2
〒959-0393 ☎0256-94-2001
www.yahiko-jinja.or.jp

開館時間 / 9:00~16:00

休館日 / 毎週月曜日(休日の場合は翌日)及び冬期間(1月~2月)

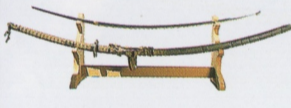
拝観料 / 大人300円、高大生200円、小中生100円

団体(10人以上) 200円、 100円、 50円

彌彦神社 宝物案内



越後文化発祥の源、一宮に伝わる宝物



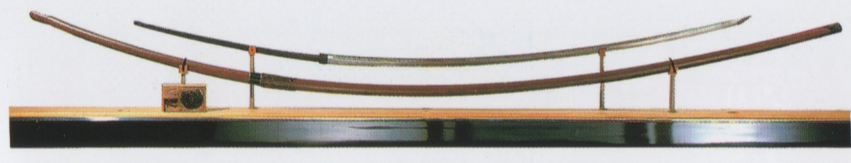
大太刀拵共 (新潟県文化財)
越後高田(上越市)の刀匠・三家正吉が天保十四年(一八四三)に鍛え当神社に奉納したもの。刀身を始め鐔・鞘・目貫など拵全てが越後の工人の手によるもの。刀身二四センチ・茎九二センチ。志田大太刀と並び我が国最大級に属する。



九曜巴散双鶴鏡 (重要美術品)
室町期の金銅製の円鏡で、直径三一・二センチ。鏡背を二重界隈で内外に分け、内は中央の亀甲鈕に接して菊花、また二羽の鶴を配し、九曜巴紋を散らしている。



鏡鞍附壺鏡 (新潟県文化財)
源義家が奥州征伐の折に当神社に参拝し、神助を願って奉納したものと伝えられる。
鏡鞍は平安朝の様式を伝え、鏡は平安朝からさらに遡る古式を残している。



志田大太刀
(銘)南無正八幡大菩薩石惠門系家盛 南無庵摩利支天源定重
応永二十二年(一四一五)、古志郡夏戸(長岡市寺泊夏戸)の豪族・志田三郎定重が、備前国長船の刀匠・家盛に打たせ、当神社に奉納したもの。
重要文化財中の彎刀では最大級の大太刀。
刃渡り二二〇・四センチ、茎一〇一・八センチ、大亀文面両棒樋・地は板目鍛え、反り高く、刃文はのたれごころの乱刃。鐔は円形の練革を十三枚重ね黒漆を塗っている。昭和四年国宝、同二十五年に国の重要文化財に指定された。
慶長十五年(一六一〇)年、佐渡奉行大久保長安が越後地方巡検に際し当神社を参拝、拝観した折りに、この大太刀の素晴らしさに驚き、江戸表へ運ばせ二代將軍・徳川秀忠の上覧に供したと伝えられている。



後醍醐天皇勅額
後醍醐天皇御奉納の額。
表に「正一位大明神」、裏面に「建武二年乙亥七月三日 惣検校坂上政盛」の刻銘。松平定信が編集した古書画・武器等の図録「集古十種」に収録されている。
縦一一・五センチ、横七二・八センチ。



伊夜比古神社記
当神社の古伝を集めた縁起書。
元禄元年(一六八八)年、著名な神道学者・橋三喜が当神社神主・高橋光頼の求めに応じて記したもので、華麗な料紙・装丁で、当神社の重要な文書の一つ。



上杉輝虎祈願文 (新潟県文化財)
上杉輝虎(謙信)が元禄七年(一五六四)に当神社に奉納した祈願文。
関東、信濃、越中等へ出兵した理由を明らかにし、全て義戦であつて断じて私欲非道を行わないことを固く誓って神助を祈っている。戦国乱世の中でも正義を重んずる謙信の人物が窺われる。



砧青磁袴腰香炉 (新潟県文化財)
慶長十七年(一六一二)に越後高田城主松平忠輝(徳川家康六男)が奉納したもの。
この香炉は、建長寺開山の大師禪師蘭溪道隆が来日の折りに持参して鎌倉將軍に献上、後に徳川家康に伝わり、更に忠輝が拝領して当神社に奉納したと伝えられる。
高さ十五センチ・口径二〇センチ余。我が国に現存する青磁香炉の中で最大の部類に属し、南宋・竜泉窯の焼成と伝えられている。



大鉄鉢
国指定重要文化財 鉄製仏餉鉢
高さ三五・四センチ・口径五九センチ余りの巨大な鉄器。嘉暦元年(一二二六)、奥山庄中条(胎内市中条)の豪族・相次郎孝基が奉納した旨の銘文が胴周りに陽鑄されている。
本来の用途は不詳ながら、賽銭鉢・柴燈鉢あるいは仏餉鉢として用いられたものと伝えられている。
昭和三十四年に重要文化財に指定された。